

No.90

# さいばいニュース

(財)神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237  
神奈川県三浦市三崎町  
城ヶ島養老子  
☎ 046(882)6980  
FAX 046(881)2233



少年・少女釣り大会に協力し、生産したカサゴ稚魚放流

## —不特定多数の受益者を対象とするため—

### (財)神奈川県栽培漁業協会は 公益法人目指し手続き開始

平成二十年十二月一日から新たな公益法人制度が施行されました。そのため、現在ある社団法人・財団法人は、平成二十五年十一月三十日まで、一般法人か公益法人に移行する必要があります。

(財)神奈川県栽培漁業協会は、現在、特例民法法人として位置づけされていますが、公益財団法人を目指して手続きを進めています。

その公益財団法人というのは、不特定多数の受益者を対象とした団体であること、収益を求めないこと、収益を求めないことなどの条件を求められています。

(財)神奈川県栽培漁業協会は、神奈川県沿岸における水産資源の生産を最大限に維持していくため、資源管理を推進するとともに、豊かな海づくりを実現する有力な手段として、漁場を有効に活用した「つくり育てる漁業」に積極的に取り組んでいきます。

このように、栽培漁業協会は、資源の増大に努力すること、漁業経営の安定を図っていくことにも、県民に遊漁をはじめとするレクリエーションの機会を増やすことを目指す団体ですので、公益財団法人で申請することを予定しています。

ところで、公益財団法人は、今までの財団法人運営と大きく異なる点があります。

まず、公益財団法人は、公益目的事業比率が総事業費の五十パーセント以上を占めていることが必要です。

また、今度の公益財団法人の理事会・評議員会の成立には、書面決議ができなくなります。このことから、理事会・評議員会が成立するには、これらの会議への役員等が二分の一以上の出席を必要とあります。

さらに、理事と評議員監事も登記をすることが求められています。

このようなことから、理事会・評議員会の円滑な成立を図るためには、現在の理事十五名、評議員二十五名、監事三名を理事七から十一名、評議員七から十一名、監事二名に減員しなければならぬ、と考えています。

理事・評議員の数を減員

することにより、栽培漁業協会の運営状況を各地・各団体に伝えるためには、新たに栽培漁業推進協議会を設立して円滑な意志伝達を図ろうとしています。

また、評議員・理事・監事候補者には欠格事由の確認書をとることになります。

欠格事由とは、犯罪、脱税など刑法に係る人の就任を拒むためのものです。さらに、親族や同一団体からの役員数も制限が加えられています。

次に現在は評議員会と理事会は午前・午後の同日に開催をしています。しかし新公益財団法人では、理事会を開き、一週間後以降に評議員会を開催する必要があります。

平成二十二年十一月に開催する理事会・評議員会では新公益法人の評議員候補の承認をして頂き、次いで、評議員選定委員会を開催して公益財団法人の評議員候補が決まります。

さらに、平成二十二年三月の理事会・評議員会で新公益法人の定款案を承認して頂きましたが、県庁の文書課、水産課と相談して修正した定款案を十一月の理事会・評議員会に議題としてあげます。これらの手続きが終了し、新公益法人の申請内容を県庁水産課と相談し、申請書が完成した段階で公益認定委員会へ申請する予定です。



棧橋からクロダイ稚魚を放流



ぼくも募金する



タコ、美味しい

## かながわの豊かな海づくり クロダイの稚魚千尾を放流

神奈川県環境農政局水・緑部水産課は十月三日、横須賀市平成町の新安浦漁港で「かながわの豊かな海づくり」を開催しました。親子連れなど五百人が協会が生産したクロダイの稚魚千尾を放流しました。放流参加者は横須賀市東部漁協女性部の協力で用意した地ダコを試食しました。そして、協会が展示した稚魚や稚貝の水槽を見た親子連れは、次々に栽培募金を

に協力してくれました。冒頭、米山健水産課長は「平成十七年に神奈川県で開催された全国豊かな海づくり大会の主旨を引き継ぎ、神奈川の海を豊かにしようと取り組んでいるので協力して下さい」とあいさつしました。引き続き、(財)神奈川県栽培漁業協会の今井利為専務が、放流するクロダイの稚魚をいつから育て始めたか、現在の大きさなどを説明しまし

た。この後参加者は、協会が育てた平均全長約七センチの大きさに育ったクロダイ稚魚を、協会の職員に小さなバケツに入れてもらい、漁港の棧橋まで行き、海に放流しました。

協会は、放流会場に泳ぎ回るクロダイ、マガイカサゴなどの稚魚、アワビ、トコブシなどの稚貝を水槽に入れ展示しました。小さな子どもやお母さんなどが覗き込み「かわいい」と声をかけ、次々に栽培募金に協力してくれました。また参加者は、横須賀市東部漁協の女性部がサイコロ状にカットした地ダコを試食、幼児まで「美味しい」と満足していました。

神奈川県水産技術センターは今年夏、神奈川県立海洋科学高校の生徒を対象に漁業体験講座を実施しました。シラス船曳網漁業の講座に参加した生徒は女性も含め五名でした。生徒たちは朝五時、シラス船曳網漁船・かねしち丸に乗船、長井町沖に出漁、三回の網曳きを体験し七時に帰港。シラスの加工作業を見学、シラス干し作業を手伝いました。この後同船の山田芳樹船主が「漁師としての心構え」について話をしました。その中で、同校の卒業生が同船で働きながら漁具をそろえ、今年六月に独立して漁業を始めていることを紹介しました。また現在、同船に乗り仕事を覚えている三人の若い漁業就業予定者は「働いただけ収入につながる」「大きい魚が獲れるとうれしい」「親が漁業をしており跡を継ぎたい」と話しました。最後に女生徒が「女でも漁師になれるのか」と質問すると、山田船主は、以前、この講座を受けた女生徒が卒業後、鎌倉市の若手女性漁業者、岩橋桃子さんの桃丸に乗り組み漁師を目指していることを紹介、山田船主は「女性でも大丈夫」と大鼓舞を押ししました。

東京湾口・三浦市松輪沖に  
**マダイ稚魚  
2万尾を放流**  
再捕したら、  
報告をお願いします



マダイ稚魚に標識を付ける

協会は九月二日、協会職員が一尾ずつ稚魚に標識を付けた二万尾のマダイ稚魚を三浦市松輪沖に放流しました。全国豊かな海づくり推進協会が取り組んでいる「栽培漁業資源回復対策事業」に参画した事業です。都市近郊の東京湾口という閉鎖海域に標識を付けたマダイ稚魚を放流し、放流効果を検証するのがねらいです。昨年、二万尾を東京湾内に放流したのも含め、再捕したら協会(電話046-882-6980)にご報告をお願いします。

## 潮騒

神奈川県水産技術センターは今年夏、神奈川県立海洋科学高校の生徒を対象に漁業体験講座を実施しました。シラス船曳網漁業の講座に参加した生徒は女性も含め五名でした。生徒たちは朝五時、シラス船曳網漁船・かねしち丸に乗船、長井町沖に出漁、三回の網曳きを体験し七時に帰港。シラスの加工作業を見学、シラス干し作業を手伝いました。この後同船の山田芳樹船主が「漁師としての心構え」について話をしました。その中で、同校の卒業生が同船で働きながら漁具をそろえ、今年六月に独立して漁業を始めていることを紹介しました。また現在、同船に乗り仕事を覚えている三人の若い漁業就業予定者は「働いただけ収入につながる」「大きい魚が獲れるとうれしい」「親が漁業をしており跡を継ぎたい」と話しました。最後に女生徒が「女でも漁師になれるのか」と質問すると、山田船主は、以前、この講座を受けた女生徒が卒業後、鎌倉市の若手女性漁業者、岩橋桃子さんの桃丸に乗り組み漁師を目指していることを紹介、山田船主は「女性でも大丈夫」と大鼓舞を押ししました。



# 栽培漁業協会、自立化を求められる

## 不特定多数の受益者の受益は公費で補てんを

【助】神奈川県栽培漁業協会は、平成二十三年度から国・県の補助金を原則的に助成されずに経営をしていくことになりました。平成二十二年度までは、マダイ・ヒラメの資源増大実証事業に合計五百五十万円が補助されました。また、ヒラメ



マダイ種苗放流



ヒラメ種苗放流

の種苗は、水産技術センターが種苗を生産し、廉価で栽培漁業協会に配賦されて相模湾と東京湾へ無償で十萬尾を放流してきました。この補助事業が中止されることになり、今後、安定して種苗を放流するためには、これら種苗経費を受益者である

漁業者や遊漁船業者にご負担を検討していただきます。マダイの種苗を今までも年平均百万尾を生産するためには二千六百万円が必要で、補助金はその十一パーセントを占めていました。マダイの種苗生産には

今までも、基本財産の利子、漁業者・漁協の負担金、遊漁船業者協力金、マダイ遊漁者・遊漁船業者協力金を充ててきました。この中でマダイ遊漁者・遊漁船協力金制度はそれぞれ平成十三年度と十七年度に導入しました。当初の期待よりも協力の状況が地域・遊漁船のばらつきが大きく、目標値を達していません。この格差を縮める努力をする必要があります。しかし、マダイ協力金の協力度合いによっては、生産資金に合わせた放流尾数に縮小するか、百万尾の放流を維持していくならば協力金制度を見直す必要があるかもしれません。

ヒラメの種苗は、先に述べたとおり、補助金による資源増大事業で十萬尾と各漁業協同組合・財団法人が有償で購入し、六萬尾から八萬尾を放流していただきました。二十三年度から水産技術センターではヒラメの種苗生産事業を中止しトラフグの種苗生産試験に移行することになっていきます。したがって、十六萬尾から十八萬尾のヒラメ種苗は、他県の業者から購入する必要があります。現在、ヒラメの種苗価格は、季節・大きさによる変動がありますが、今までの十萬尾に相当する七百萬円から一千万円の新たな負担が増えます。ヒラメは神奈川県沿岸における刺網、定置網、底曳き網などの重要魚種であり、現在の漁獲量の二十四パーセントは放流によって支えられています。この種苗購入費をどのよう具体的にそれぞれの漁業協同組合、

現在、千葉県から宮崎県までの太平洋海域栽培漁業推進協議会で新たな海域協議会組織を作り、その組織が種苗生産・中間育成経費の助成を受ける体制づくりの検討を進めていまして、年明けにも結論が得られることを期待しています。皆さまのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

現在、千葉県から宮崎県までの太平洋海域栽培漁業推進協議会で新たな海域協議会組織を作り、その組織が種苗生産・中間育成経費の助成を受ける体制づくりの検討を進めていまして、年明けにも結論が得られることを期待しています。皆さまのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

現在、千葉県から宮崎県までの太平洋海域栽培漁業推進協議会で新たな海域協議会組織を作り、その組織が種苗生産・中間育成経費の助成を受ける体制づくりの検討を進めていまして、年明けにも結論が得られることを期待しています。皆さまのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

現在、千葉県から宮崎県までの太平洋海域栽培漁業推進協議会で新たな海域協議会組織を作り、その組織が種苗生産・中間育成経費の助成を受ける体制づくりの検討を進めていまして、年明けにも結論が得られることを期待しています。皆さまのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 相模湾水産振興事業団の武井理事長



武井理事長

【助】相模湾水産振興事業団の武井理事長は、沿岸漁業の振興に功績があったとして、大日本水産会の平成二十二年度水産功績者として表彰されました。今年度、同功績者として選ばれたのは沿岸

漁業関係十七人、増養殖・内水面関係十四人など合計三十七人です。武井理事長は、永年にわたり(助)相模湾水産振興事業団の職員及び理事として事業団の運営に携わり、相模湾地域の漁業の発展に尽力するとともに、相模湾の自然保護などに貢献したとして推薦され、今回の受賞となりました。事業団の理事長に関する功績としては、昭和四十七年三月、事業団の設

立に際し、関係団体との調整や財団法人の組織や規程類の整備などについて中心的な役割を担い、事業団の設立に貢献したことがあげられています。また、事業団設立当初から漁業振興や資源保護活動を、適切な団体運営に力を注ぎ、平成十二年から事業団の理事、十三年からは副理事長、十五年からは理事長に就任しています。武井理事長は、卓越した団体運営能力により、現在、(助)神奈川県栽培漁業協会理事、(助)神奈川県漁業振興協会理事として、神奈川県下の水産業の発展にも貢献しています。

た、漁業資金や漁業自主共済に対する補助事業を実施し、相模湾地域の漁業振興、経営の安定に大きく寄与しています。昭和五十二年からは毎年、相模湾の環境保全と水産振興シンポジウムを開催し、神奈川県「水源の森づくり」事業を支援するなど、広く環境問題に取り組んでいます。武井理事長は、卓越した団体運営能力により、現在、(助)神奈川県栽培漁業協会理事、(助)神奈川県漁業振興協会理事として、神奈川県下の水産業の発展にも貢献しています。

## 相模湾の環境保全と水産振興シンポジウム

### 海況変動(温暖化)・魚類相変化などを討議

第三十四回「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウムは十月十九日に小田原市で開催され、漁業関係者、水産研究者など百五十人が参加、総合討論などを行いました。東北大学の近藤純正名誉教授は「気候変動と私たちの暮らし―歴史資料に学ぶ―」と題して基調講演、中央水研元所員の友定彰氏は「日本周辺海域に起こった海況の長期変化」、神奈川県水産技術センターの清水顕太郎氏は「相模湾で起こった海況の長期変動の特徴」、同センターの山田佳昭氏は「相模湾における水質環境・プランクトンの長期変動」、相模湾試験場の片山俊之氏は「相模湾における魚類相の長期変化」と題し話題を提供しました。定置網漁業者の加藤孝大磯町漁協組合長、刺網漁業者の鈴木喜一、小田原市漁協副組合長、遊漁漁業者の後藤勇平塚市漁協組合長が意見を発表、総合討論が行われました。

また別の時、道路を走っていたら、象の群が直ぐ前方を横切っているのを見付けた。通り過ぎるまで待とうと車を停めたところ、象達が車の直ぐ傍らまで近寄ってくる。と、一匹が小便を始め、それに習って全部の象が一斉に小便を始めた。その小便が川のように流れ、その小便の川の中で一時間も待たされた話。

大蛇を轢く  
夜中に、一本道の道路で、ライトの先に丸太ン棒が横たわっていたので、慌ててブレーキを掛けたが間に合わず、ゴトンと乗り上げてしまった。ところがそれは丸太ン棒ではのうて、馬鹿デカイ蛇だったとか。

臨時心変はダメ  
仕事はそれまでと大差はなかったのですが、一つ違うのは、どんなことも、いちいち上役や担当者に相談しなければならぬ。(つづく)

# まぐる千夜一夜

## 続 鱸のオンチャン航海記

### 第16話 国棄て ⑥

(前号までのあらすじ：トランジスタラジオの修理に行った家の髭男と酒盛り。日本語が上手だが、と訊ねると、大笑いしたこの男、「元」日本人だ、と告白。印度洋の駐在員になった経緯などを話しました)

## 現地雇員

主な仕事は綿花、椰子、牛肉などの買付けだそう、何しろ小さな会社のことですから、任地には一人入り、現地で助手を調達し、勝手の分からない土地を、全く手探りで開拓しなければならなかったため、見も知らぬ異国で数え切れないほど恐ろしい経験もしたとのこと。

途方にくれていたところ、中規模程度の或る商社から、「現地雇員の資格で良ければうちで働いてみないか」と、声が掛かったので、渡りに舟と、その商社に入社して貰うたんです。その会社の現地事務所がナイロビにあって、そこに新任の挨拶に行くと、所長という人物が大層無礼な男で、机に両脚を乗せたまま、まるで奴隷に対するような横柄な態度で終始し、最後は手真似で、まるで犬でも追うような恰好をしたらしい。

## 象の小便の川の中で

また別の時、道路を走っていたら、象の群が直ぐ前方を横切っているのを見付けた。通り過ぎるまで待とうと車を停めたところ、象達が車の直ぐ傍らまで近寄ってくる。と、一匹が小便を始め、それに習って全部の象が一斉に小便を始めた。その小便が川のように流れ、その小便の川の中で一時間も待たされた話。

## 大蛇を轢く

夜中に、一本道の道路で、ライトの先に丸太ン棒が横たわっていたので、慌ててブレーキを掛けたが間に合わず、ゴトンと乗り上げてしまった。ところがそれは丸太ン棒ではのうて、馬鹿デカイ蛇だったとか。

## 臨時心変はダメ

仕事はそれまでと大差はなかったのですが、一つ違うのは、どんなことも、いちいち上役や担当者に相談しなければならぬ。(つづく)



# 平塚市で 漁業者と児童のふれあい給食

## 幼稚園児が魚市場・漁港の見学



後藤組合長も児童と一緒に給食



タッチングプールに大喜び

平塚市では小学生や幼稚園児と漁業者の交流に積極的に取り組んでいますが、九月に初めて同市立花水小学校で漁業者と児童の「ふれあい給食」が行われました。また十月には、港幼稚園の児童

が平塚市漁協の協力で魚市場や漁港を見学、タッチングプールを楽しみました。同市の初の漁業者と児童の「ふれあい給食」では、平塚市の大蔵律子市長などや平塚市漁協の後藤勇組合長ら漁業者五名が参加し、平塚漁港に水揚げ

されたサバを使った、「サバのおろしソースがけ」などをおかず、「栗ごはん」を食べました。地産の魚を初めて学校給食の食材として使用し、漁業者と児童が一緒に食べたもので、児童は揚げたサバをポン酢しゅうゆと大根おろしで和えた料理に「美味しい」を連発していました。

魚市場では、マイナス四十五度の冷蔵庫に入る体験をし、その寒さにびっくりする子どももいました。この後、平塚新港で係留されている遊漁船に乗り、水槽からサバ、ホウボウなどをすくい、荷捌所に移動し、自分たちがすくった魚をプールに入れてさわり、歓声を上げていました。

最後にサバは水氷で締めお土産にしたところ、保護者も大喜びでした。たサバやカワハギの卸し方を実演しました。また、十月には港幼稚園の園外活動が行われ、同園さくら組の幼稚園児二十六人と先生・保護者が平塚魚市場と漁港を見学し、児童は、魚のタッチングプールを楽しみました。

横須賀市東部漁協久里浜支所は十月八日、久里浜沖に六〇七センチに育ったクロダイの種苗を一尾放流しました。このうち三百尾には、「9」という数字が刻印された黄色のアンカータグが付いてあります。再捕を報告してくれた人には記念品を差し上げることになっています。

クロダイは東京湾でも重要な水産資源で、特に遊漁者はこの魚を釣ることを楽しみにしている人が多く、種苗を放流するとともにクロダイ資源の動向を調べるのが重要です。そこで標識を付けて種苗放流を行いました。標識が付いているクロダイを見つけたら、再捕年月日、どんな方法で再捕したか、再捕位置、魚の体長・体重などを、同支所(〒239-0831横須賀市久里浜8-9-5、電話046-835-0413)に報告してほしいと話しています。

天然のアワビ稚貝の分布密度は一平方メートル当たり一個以下です。人工種苗をこの密度で放流することは労力的には不可能ですが、稚貝を集中させ放流した場合、天敵の生物を呼び寄せてしまうことから、できるだけ適地に分散することが、生き残りを良くするためが必要です。

この図で分かることは、殻径二〜四センチメートルにかけて急激に生残率が〇・二〜〇・七へと上がっています。六センチメートル以上の大きさの種苗では生残率が〇・七〜〇・八と余り上がっていません。アワビはふ化から約一年余りで三・五センチメートルに成長します。一年大きくすることで生残率は〇・二上がりませんが、種苗の単価は三・五倍にもなります。したがって、回収率も三・五倍より上げる必要があります。しかし、回収率をこれほど上げることは、現実的ではありません。このことから、放流種苗は、二年貝を買って三・五倍の数の一年貝を放流することをお勧めします。

一年で殻の径で約二〜三センチメートル、二年で五〜七センチメートル、三年で九〜十一センチメートル、四年で十一〜十三センチメートルとなります。(つづく)

横須賀市東部漁協久里浜支所

報告した方に記念品を贈呈

# クロダイ稚魚に標識付け放流

報告した方に記念品を贈呈

# さいばい漁業つて何

左の図は、アワビの殻径ごとの生残率を表したものです。

種苗放流していない時代に獲られていたアワビの種類を放流して放流する種苗の種類はクロアワビが圧倒的に多くの需用があります。この理由はマガリアワビ、メガイアワビと比較するとクロアワビの単価一・三〜一・五倍するからです。

しかし、アワビ三種の生態は、以前にも述べたとおり、生息水深、岩礁の表面か奥まった所、礫など特徴があります。この生活の特徴を無視して放流しても、放流した場所に適合せず、食害種に食べられ易くなったり、適切な餌を確保できなかつたり、他の動物とのすみ場を巡る競合が生じたりなどが考えられます。

# 神奈川の栽培漁業を支える シリーズ②

## クロレラは全ての生物に価値ある有用な藻類です

一九六四年、世界で初めてクロレラの大量培養に成功したのがクロレラ工業(株)です。同社は、バイオニア・メーカーとしての使命・責任のもと、独自に開発したクロレラの「種株」を用い、培養から商品化、検査・研究を一貫して行うことで、健康に役立つ「高品質クロレラ」を製造・販売しています。

現在までに同社は、医学・薬学・栄養学の各学会で、四百例を超える研究データを発表するなど、クロレラは健康食品として認識されています。そ

して、三十年ほど前からクロレラは、魚類ふ化仔魚が最初に捕食するプラシト(ワムシ)の「餌」としても使用されるようになってきました。かつてワムシの餌は、各機関・企業が屋外で独自に培養した海産植物プランクトンであるナンノクロロプシスを使用していました。しかし天候に左右され、安定生産ができませんでした。

そこに登場したのがクロレラです。現在では、国内で生産される放流用稚魚、養殖用稚魚(サケ科魚類は除く)の六割近くが、同社で生産されたクロレラで培養されています。当協会のタイ・クロダイン・コガレイ・カサゴ・カワハギ、神奈川県水産技術センターのトラフグの種苗生産の現場でクロレラがワムシの餌として活用され、また、神奈川県立海洋科学高校の実習でも使用されています。

全国でもヒラメ・クエ・シマアジ・スズキ・クロソイ・アユなどの種苗生産現場で、同社のワムシ・アルテミア用栄養強化剤も含めクロレラは活用されています。

くが、同社で生産されたクロレラで培養されたワムシで育てられています。当協会のタイ・クロダイン・コガレイ・カサゴ・カワハギ、神奈川県水産技術センターのトラフグの種苗生産の現場でクロレラがワムシの餌として活用され、また、神奈川県立海洋科学高校の実習でも使用されています。

全国でもヒラメ・クエ・シマアジ・スズキ・クロソイ・アユなどの種苗生産現場で、同社のワムシ・アルテミア用栄養強化剤も含めクロレラは活用されています。

同協会のワムシ・アルテミア用栄養強化剤も含めクロレラは活用されています。



クロダイ稚魚を放流

はじめ釜揚げシラスなどを販売してきました。その販売所で掲示しているレシビを「消費者に配りたい」との要望が多かったため、同協議会はかながわブランド販売促進支援事業を活用し、三万七千部のパンフレットを作りました。

レシビでは、生シラスだと「しらすユッケ」、釜揚げシラスを使ったものなら「シラスチャンプル」などを紹介しており、職を掲げたシラス直販所の店頭で、パンフレットを配布し、「湘南しらす」の美味しい食べ方を提案することにしています。

湘南しらすを 百倍楽しむレシビを作成 神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会

湘南しらすを 百倍楽しむレシビを作成 神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会

湘南しらすを 百倍楽しむレシビを作成 神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会

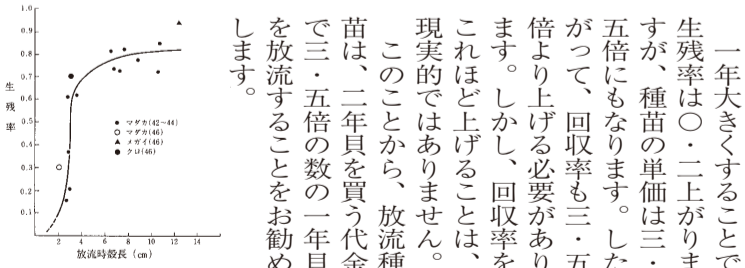


図3 放流時の殻長と年間の生残率

図3 放流時の殻長と年間の生残率

図3 放流時の殻長と年間の生残率





## 朝市・直販所めぐり シリーズ⑳

### JA湘南「あさつゆ広場」で漁農連携

# 平塚市漁協が旬の地魚の干物直販

平塚市漁協は、九月十九日午前十時から、平塚市寺田縄のJA湘南の大型直販店「あさつゆ広場」で、「旬の地魚須賀湊の開き干し」の試食販売を始めました。

その後、毎週末に仕入れ価格が手ごろな魚介類が水揚げされると干物を作り、同広場に持ち込みその場で焼いて試食してもらい販売し、買い物に来る主婦などに喜ばれています。

平塚市沖で獲れる旬の魚を、平塚漁港周辺の水産加工場が獲れたその日に開き干して販売するもので、水産物の品揃えを充実させたいJA湘南と、地魚のブランド化を



焼いた干物を試食販売

進めたい同漁協の思いが一致し、この直販が実現しました。

「旬の地魚 須賀湊の開き干し」は、漁業の町として賑わったかつての須賀湊の活気を取り戻したい、という水産関係者の願いを込めてネーミングされたそうです。サバ、アジ、イナダ、タチウオ、イワシ類、カマスなど季節の地魚の干物を作り、試食販売していくことにしています。

【アクセス】電車・バスだと、JR平塚駅北口8番乗り場から秦野駅行きバスに乗り、「平塚養護学校前」下車、徒歩5分です。

平塚方面から車で来る場合、県道62号線(平塚秦野線)を秦野方面に直進し、「ひらつか花アグリ入口」を右折するとすぐです。

●住所 平塚市寺田縄424-1

●問い合わせ先 平塚市漁協 0463-21-0146



客が詰めかけた魚まつり



刺身の試食も人気



最近、「これは面白い話題だ」と思うのが、神奈川県水産技術センターが行っている神奈川県立海洋科学高校の生徒に漁業の現場を体験してもらい、漁業に関心を持ってもらうという試みです。今号の「潮騒」でも紹

### 鎌倉魚まつり

十月三日午前十時から、東京や横浜方面から五百人を超す消費者が詰めかけました。「鎌倉海老」と呼ばれるブランドイセエビをはじめサザエやカワハギ、

「湘南しらす」などの鎌倉の地魚が飛ぶように売れました。

またエビの浜汁や地魚の刺身試食コーナーが大好評となり、今年から展示した地元の生きた魚の展示水槽「ミニ水族館」「ちりめんモンスター」は、特に子どもたちに大人気でした。

## 鎌倉魚まつり



飛びような売れ行き、鮮魚販売



「湘南しらす」などの鎌倉の地魚が飛ぶように売れました。

またエビの浜汁や地魚の刺身試食コーナーが大好評となり、今年から展示した地元の生きた魚の展示水槽「ミニ水族館」「ちりめんモンスター」は、特に子どもたちに大人気でした。

### 第六回 腰越みなとまつり

#### 水産物直販・稚魚放流など実施

第六回腰越みなとまつりは九月二十六日、腰越漁港内で開催されました。イベントが繰り広げられ、大賑わいとなりました。特に盛況だったのは鮮魚の販売で、用意した魚は二十分以内に完売しました。

十一時から地元の腰越十七人が五隻の遊漁船に分乗、漁港沖で八百尾のマグロ稚魚を放流しました。出港の前に協会の今井利為専務は「大きく育つてと声をかけて放流してください」とあいさつしました。

腰越漁協が販売した鮮魚はイナダ、トビウオ、小カマス、大羽イワシ、タチウオなどでした。また、小サバのつめ放題も行われ、タンク一杯の魚が十分もしなで売り切れてしまいました。このほか、神奈川県漁連が販売した海藻類なども飛ぶような売れ行きでした。



稚魚放流

### 東京湾で種苗放流

東京湾の再生と水産資源の復活を願う多くの人たちが、アマモ場づくりや種苗放流に取り組んでいます。今年も九月に入ってから十一日に、横浜市の本牧海釣り施設で、横浜市など五十人が参加するイベント放流が行われました。クロダイの稚魚三千尾を、参加した親子連れなどが「大きくなって」と声を掛けながら放流していました。



渡邊副社長から寄付を受ける今井専務(左)

今年ハギマスタールに参加したのはヨットやモーターボート合計七十七艇です。渡邊副社長は「今回も神奈川県栽培漁業協会に寄付することができました。」

### リビエラリゾート

#### ハギマスタールの参加費の一部を寄付

リビエラリゾートは、十一月十四日、三浦市三崎町小網代のシーボニアで「ハギマスタール2010」を開催し、今回も参加費の一部の七万七千円を「水産資源を豊かにして下さい」と協会に寄付してくれました。

今年のハギマスタールに参加したのはヨットやモーターボート合計七十七艇です。渡邊副社長は「今回も神奈川県栽培漁業協会に寄付することができました。」

九月十八日には、横浜ベイサイドマリナーで、マグロ放流イベントが行われました。百人の参加者がマグロの稚魚二千五百尾を放流しました。

十月に入り、川崎市の東扇島公園で「東扇島クロダイ放流」イベントが行われ、児童も含め川崎市民六十人が、クロダイの稚魚千五百尾を海に放流し、水産資源の増大を願いました。

海の自然を守るとい情報シーボニアから発信し続けよう」とあいさつ、協会の今井利為専務は「カワハギは人気があり、協会はこの資源の増大に今日の寄付を活かします」とお礼の言葉を述べました。

なお、四尾の合計体長で競われた同マスタールの優勝は一一・五センチ、大物賞の一位は大会史上最高の三五・七センチでした。同社は、秋に「ハギマスタール」春に「キスマスター」を行い、参加者に寄付を呼び掛け、協会に寄付を続けています。

### 編集後記

最近、「これは面白い話題だ」と思うのが、神奈川県水産技術センターが行っている神奈川県立海洋科学高校の生徒に漁業の現場を体験してもらい、漁業に関心を持ってもらうという試みです。今号の「潮騒」でも紹

介していますが、体験事業に参加した生徒が卒業後、沿岸漁業者に「弟子入り」し、経験と資金をため漁業を始めたケース、同じく卒業した女生徒が女性漁業者の下で仕事を覚えていることです。

これら若人のためにも水産資源を維持・増大する栽培漁業が重要、といえるのではないのでしょうか。